



で き ご と

11月9日(月)、グランシップを会場に「静岡県図書館大会」を開催しました。

午後はテーマ別に分かれて分科会が行われました。今年度は、第2分科会「YAのための読書環境づくり～魅力ある本を作り、若者が本と出会うためにやってきたこと～」が子どもの本に関する分科会でした。講師は、西村書店の西村安曇氏。講演では、YA出版会の取り組みや作家との出会いから出版までの経緯、マスコミやインターネットを通じた情報発信の方法など、『ルミッキ』という作品を通してお話してくださいました。いい本を少しでも多くの子どもたちに手渡そうという熱い思いに満ちた講演会でした。2ページ目にて、概要を紹介します。(青木)

11月18日(水)、20日(金)に県内2か所を会場として「新刊児童図書巡回展示研修会」を開催しました。18日は元浜松市立中央図書館長であり、長らく児童サービスに力を注いでこられた松本なお子氏による「新刊児童図書の選

書について—公共図書館の視点から—、20日は県総合教育センター指導主事による「学校図書館機能充実のための選書のあり方」と題して、講義をしていただきました。両日とも当館職員による「新刊児童図書紹介」を行い、講義後は約1,300冊用意した新刊児童図書の自由閲覧と、選書の相談に応じました。両日合わせて約90人の、公共図書館や学校図書館において子どもと本とを結ぶ活動に関わる方々が集まり、熱気ある研修となりました。

11月8日(日)、県立中央図書館にて、静岡県読み聞かせネットワークと当館の共催で講演会「すべての子どもたちに読書の喜びを～点字付き絵本ができるまで」を開催しました。(株)小学館、(株)福音館書店、(株)こぐま社、(株)偕成社の4人の児童書編集者が集い、出版のいきさつや作成の御苦労などをお話しいただきました。巡回展示研修会及び講演会については3ページ目にて、概要を紹介します。(眞子)

◇イベント情報◇

◆静岡市子育て講演会「絵本と子育てと鳥の巣の不思議」

- 講師 鈴木まもる 氏(絵本作家)
- 日時 平成28年1月30日(土)
午後1時30分～3時
- 会場 グランシップ11階 会議ホール「風」
- 対象 未就学児を持つ保護者や子育て支援に携わっている方
- 定員 先着350人
- 参加費 無料
- 申込み 12月7日(月)9時から受付
静岡市の各子育て支援センターに電話または来館の上お申込みください。
- その他 託児あり。静岡中央子育て支援センターのみで受付(先着40人)
- 問合せ 静岡中央子育て支援センター交流サロン
電話：054-254-2296
清水中央子育て支援センター交流サロン
電話：054-355-3366

◇子ども図書研究室の テーマ展示◇

- ◆第27回読書感想画
中央コンクール指定図書
11/25～1/25
全国学校図書館協議会主催のコンクールの指定図書を展示します。
- ◆雪の絵本 12/1～1/25
2013年以降に出版された本の中から雪が出てくる絵本を集めました。
- ◆桜の本 2/5～
- ◆英米児童文学賞受賞作品
2/5～

静岡県図書館大会 第2分科会 YAに対するサービス 報告

西村書店の西村安曇さんに、「YAのための読書環境づくり」というテーマで、前半はYA出版会について、後半は本の企画と本の情報発信の方法についてお話しいただきました。

YA出版会は、13歳から19歳の子どもたちに読んで欲しい本を数多く出版し、この世代の子どもたちに読書を広めることを目的に1979年に13社で結成されました。「読まない人に読ませるよりも、これから読む人を育てる。」をキャッチフレーズに活動していますが、YA世代の子どもたちは、部活動に忙しく、またスマートフォンが普及したこともあって、読書離れがますます加速しています。中高生は、書店に行っても、マンガコーナーか参考書コーナーにしか行かず、書店にYAコーナーを作ろうと思っても、YA世代にはそのようなコーナーがあると気付かれないため、結果的に売れない棚を作ることになってしまうという現実があります。

そこでYA出版会では、販売、研修、広報の3委員会を作り、事態の改善を図っています。YA基本図書のセットでの販売、時宜に合わせたブックフェアの開催、公共図書館や学校図書館、書店との研修会などが具体的な活動です。ブックフェアでは、ある書店員が作ったPOPを全国どこでもダウンロードできるようにし、学校図書館司書との研修では、学校での具体的な実践を紹介するなど、それぞれの場ですぐに活用できるよう工夫して情報を提供しています。

また、YA世代に向けては、YA朝の読書ブックガイドやYA図書総目録などのYA本選びのツールも提供しています。静岡新聞などの15の地方紙で、YA書評コーナーも開設し、子どもたちへの情報発信も行っています。東京国際ブックフェアでは会場で中高生のガイドも行っており、今回は28校250名の子どもたち

を案内しました。

翻訳本を作る際、カタログで選ぶ、翻訳者に推薦してもらうなどの手段がありますが、ブックフェアに行くと、作家の話や直接聞くことができるというメリットがあります。

フィンランドの作家、サラ・シムッカともフェアで出会いました。彼女が記者会見をすることになりましたが、若手の新人作家が記者会見を開いても、話題になりません。そこで、本人の都合で来日できなかったこともありますが、Skypeを用いてフィンランドから参加するような会見にし、取材に来た人におそろいのネクタイを配り、着用してもらうなど、少しでも話題になるような仕掛けをしました。インターネットを通じた情報発信は、ただ単に面白いだけでは、印象に残りにくく、工夫が必要になります。ツイッターなどのSNSも積極的に使い、YA世代に本の情報を発信しています。

いい本を見つけてたくさんの子どもたちに届けたいという編集者の情熱を感じる講演会でした。出版社の発する情報を、子どもたちだけでなく、子どもに本を手渡す大人もうまくキャッチし、活用していかなければならないと思いました。

所蔵資料から

文学



『不思議の国のアリス』
ルイス・キャロル／作
ロバート・イングペン／絵
杉田 七重／訳
西村書店 2015年10月

タイトルは知っているけれども、読んだことはない本として講演中に西村氏が紹介した本。挿絵は国際アンデルセン賞受賞画家のロバート・イングペンです。ジョン・テニエルの挿絵のアリスと比較するのも面白いでしょう。(青木)

県立中央図書館 新刊児童図書巡回展示研修会 報告

当館職員による新刊児童図書紹介では、2014年の出版状況、富士山に関連した図書、新訳や復刊状況などの紹介をしました。

第1日目は「新刊児童図書の選書について—公共図書館の視点から—」と題して、松本なお子氏から講義をしていただきました。実際の選書を行う前に確認すべき事項として、①選書方針②蔵書構成③役割④利用状況⑤予算の5つの「選書の基盤」の確認が必要であるというお話がありました。また、蔵書の核となる長く読み継がれてきた基本図書の魅力をよく知ることが、よりよい新刊の選書につながるというお話や、選んだ資料を子どもたちに手渡す方法についても言及されました。

松本氏には、今回で4度目の講義をしていただきました。詳しい報告は、『子ども図書研究室だより』NO.65、69、73に掲載してありますので、そちらをご覧ください。

第2日目は県総合教育センターの夏目指導主事から「学校図書館機能充実のための選書のあり方」と題してお話いただきました。学校図書館法や学習指導要領における学校図書館の位置付けなどについて言及されました。

学校図書館活用授業は、国語や社会の授業、公共図書館の司書に選んでもらった絵本を使った道徳の授業などの具体的な事例が紹介されました。資料を活用するためには、年間計画を立てる時点で教員と相談をする必要性が説かれました。また、公共図書館の資料を授業で使う場合は、地域の教科の担当教員で集まり、実施する時期の調整をする方法についても言及されました。いずれも教員と学校司書、公共図書館との連携が不可欠であり、手間がかかることではありますが、「子どもの学びを深める」という目的をもって取り組んでほしいとお話がありました。その

他、地域の書店の協力のもと児童生徒による選書が行われた様子もお話いただきました。

両日とも、講義の後は今年5月以降に発行された約1,300冊の新刊児童図書の現物閲覧と選書相談を行いました。この研修会が、参加された方々のそれぞれの図書館で、図書館づくりや選書業務の参考になればと思います。両講師とも、実際に手に取って選書をする大切さをお話いただきました。子ども図書研究室の全点収集資料をぜひご活用ください。

すべての子どもたちに読書の喜びを ～点字つき絵本ができるまで～ 報告

点字つき絵本とは、点字がついているだけでなく、絵も触って分かるよう工夫がされ、見える子も見えない子と一緒に楽しめる絵本のことです。触図は紫外線硬化樹脂で凸刷されていますが、必ずしも見える絵と同じではなく、触ったときに理解できることを優先して作っているそうです。講演された4社も含め、出版社の枠を超えて「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を発足し、情報の共有やシリーズ本の出版をされています。

当日は120人の参加者が集まり、熱心に聞き入りました。視覚障害のある子どもから「聞いて知っていた話だけど、自分で読むことができるとてもうれしかった」と言ってもらったというエピソードが印象に残りました。

所蔵資料から

絵本

『さわるめいろ2』



てんじつきさわるえほん』

村山 純子/著

小学館

2015年2月

『さわるめいろ』（2013年刊）の第2弾。色を鮮やかにして弱視の人でもより楽しめるようになりました。目の不自由な子どもたちは両手を使って迷路をたどっているそうです。 (眞子)

新着資料から

知識 『アリのくらしに大接近』

丸山 宗利／文
島田 拓／写真
小松 貴／写真
あかね書房
2015年7月



私たちにとって、アリは身近な昆虫だが、知っていることはそれほど多くない。

本書は、アリについての写真絵本で、アリの繁殖方法や巣の作り方、食べものの確保の仕方など、アリの生活を豊富な写真とともに説明する。文章は平易な言葉で書かれ、すべての漢字にルビが振られている。内容がとても詳しいので、大人が読んで面白い。

本書の姉妹編として『アリの巣のお客さん』もある。こちらもあわせてお楽しみいただきたい。

【小学校中学年から】 (青木)

知識 『アイヌ民族：歴史と現在』

—未来を共に生きるために 改訂版第4版』

公益財団法人
アイヌ文化振興・研究推進機構
(アイヌ文化財団)
2014年6月



古くから北海道を中心に東北地方などで暮らしてきた、アイヌ民族の歴史や文化について学べる1冊。アイヌ独特の言葉、衣服、住居、歌や踊りなど、多くの分野について写真や図版を豊富に用いながら解説されている。和人との関係についても詳しく述べられており、明治以降の同化政策で差別を受けた辛い歴史や、現代を生きるアイヌの人々の様子も知ることができる。小学生版と共に、中学生版も出版されており、最新改訂は2015年。どちらも本文はアイヌ文化財団HPで公開されている。【小学校中学年から】 (仲本)

絵本 『ジンベエザメのはこびがた』

松橋 利光／写真
高岡 昌江／文
宮野 耕治／絵
ほるぷ出版
2015年7月



水族館の魚は、どこからきたの？世界一大きな魚を運ぶにはどうすればいいのだろう？

全長5メートル、体重1トンもある子どものジンベエザメを高知県土佐清水市以布利から大阪にある海遊館まで(460キロメートル)を運ぶドキュメンタリー。

いきもののプロと、はこぶプロがチームとなり、細心の注意を払って運んでいく様子が見え、使用している機材も写真やイラストで紹介されていて興味深い。漢字にはすべてルビが振ってある。【小学校低学年から】 (青山)

文学 『天と地の方程式Ⅰ』

富安 陽子／著
五十嵐 大介／画
講談社
2015年8月



開校したばかりの小中一貫校、栗栖の丘学園に通いはじめた中学2年生の田代有礼は、猿が出てくる不思議な夢を最近よく見る。ある日、数学に天才的な才能を持つ同級生“Q”と異空間に閉じ込められる。なんとか脱出した二人だが、その後出会ったしゃべる猿に、自分たちは天ツ神に選ばれた巫(カンナギ)であり、この世界への黄泉ツ神の侵入を防ぐ役目があると告げられ…。

古事記を元に繰り広げられる学園ファンタジー。全三部作。完結編となる第3部は2016年3月刊行予定。【小学校高学年から】 (眞子)